（毎月１回１日発行）昭和63年５月２日第三種郵便物認可　豊かなクリーンライフを提唱する情報紙　2026年９月１日号　第500号　年間　5,000円（税込）

KNM GROUP
かなめ流通グループ

かなめ Kaname

全国クリーニング資材卸商協同組合
〒101-0047
東京都千代田区内神田3丁目5番5号大同ビル6階
電話03(5295)0136　FAX03(5295)0130
発行人　船木春男　　編集人　坂本吉敬

上半期の洗濯代支出 9.5%ダウン

6月38%減、4・5月も前年割り込む

今年の6月は「かなり悪い」「厳しい」と言われていたが、その6月の1世帯（2人以上）当たりの「洗濯代」支出（総務省統計局・家計調査）が発表され、前年同月比38・0%減の大幅ダウン（223円減の364円）であった。左に2010年以降の上半期の洗濯代支出をまとめた表が

◆1世帯当たり上半期 洗濯代支出の推移（2人以上の世帯）　※金額単位：円

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	上半期計
2026年	214	220	434	726	640	364	2,598
2025年	218	197	368	749	752	587	2,871
2024年	225	235	389	766	590	441	2,646
2023年	244	208	478	666	585	499	2,680
2022年	188	184	401	672	669	528	2,642
2021年	207	185	417	610	613	470	2,502
2020年	292	294	391	567	726	519	2,789
2019年	309	318	520	820	830	686	3,483
2018年	301	312	589	975	793	542	3,512
2017年	327	278	424	930	934	623	3,516
2016年	302	318	536	946	914	705	3,721
2015年	339	333	606	958	991	617	3,844
2014年	407	309	750	906	972	780	4,124
2013年	328	310	601	880	1,020	706	3,845
2012年	383	379	567	1,061	1,008	826	4,224
2011年	383	326	449	886	1,004	818	3,866
2010年	396	379	603	918	1,180	925	4,401

※赤字は最も金額が低かった年

あるが、6月の支出額が300円台まで落ち込むのは2011年の東日本大震災時やコロナ禍を含めて、初めてのこと。

勤労者世帯の6月はさらに落ち込みが大きく、40・0%減（259円減の389円）。

実は2人以上、勤労者とも、4月は3%台の前年割れ、5月は2ケタ減（2人以上14・9%減、勤労者14・2%減）で、4～6月のすべてが前年割れと〝大変厳しい春〟となった。

その反動もあるのか、7月は「良いところは良い」との声も聞かれるが、止まらない物価高や猛暑により、多くの消費者の足がク店から遠ざかっているようだ。

なお、業界総需要のベースとなる2人以上の上半期（1～6月）支出は9・5%減となった（勤労者は11・1%減）。

このままのペースでいくと、年間支出額は43万円程度（25年は47万785円）となり、これに今年1月1日現在の世帯数（住民基本台帳）である6174万7140をかけると、総需要は2674億円（25年は2933億円）程度となる見通し。

■日本人1・2億人切る

ちなみに、今年1月1日現在の人口について、総人口は1億2376万人であったものの、日本人住民は1億1973万人で、42年ぶりに1億2000万人を割り込んだ。一方、外国人住民は403万人で過去最多となり、構成比は、日本人が96・74%で、外国人が3・26%。

人口減（前年比0・45%減）と同時に日本人減（同0・76%減）が進んでおり、需要減だけでなく働き手不足にも悩まされることになりそうだが、そんな業界の中にもクリーニング＋関連サービスで「前期は過去最高益！」と、躍進する業者ももちろん存在する。

かつての柱であったドライクリーニングは確かに厳しい状況かもしれないが、新たな発想で前期・今期以上、いや、過去最高を目指そう！

進むクリーニング離れ よく利用してくれるのは？

稼ぎ時であるはずの春（4～6月）の大苦戦により、今年の上半期の洗濯代支出は9・5%減となってしまった。コロナ禍を経て、オフィスカジュアルに拍車がかかったことに加えて、石油関連製品の価格上昇や人件費高騰により、複数回の値上げを行ったクリーニング店も少なくないことから〝ク店を利用しない層〟は、確実に増えていると思われる。

一方で、そんな中でも、よく利用してくれる人とは？

下の表は、コロナ前の2019年から直近の25年までの洗濯代支出を年間収入5分位階級別に見たもので、青い太字は平均を上回っている層。結果は一目瞭然で、青くなっているのは25年のⅣを除いて上位2階級だけ。

その2階級でも、ⅣとⅤの支出額は2倍程度の差があり、当たり前の話ではあるが、クリーニングをよく利用するのは、より上位（富裕）層だと言えよう。

直近の25年とコロナ前の19年との比較も見てみよう。平均が19・4%減なのに対し、階級Ⅳは26・8%減と落ち込みが大きいが、最上位のⅤは15・1%減と、比較的落ち込みが小さい（最少はⅢの13・8%減）。

これまでよく利用してくれていた〝中流層〟のクリーニング離れが進む中で、いま狙うべき層ははっきりしているのでは。その層に合わせた仕掛けが、より重要になってくるのではないか。

◆年間収入五分位階級別「洗濯代」支出　※金額単位：円

		2025年	2024年	2023年	2022年	2021年	2020年	2019年
	平　均	4,785	4,570	4,711	4,628	4,220	4,661	5,936
Ⅰ	～343万円	2,118	2,272	2,143	1,809	1,820	2,138	2,684
Ⅱ	～493万円	2,960	3,233	3,255	3,225	3,014	2,942	3,982
Ⅲ	～681万円	4,377	3,770	3,940	3,621	3,085	3,813	5,077
Ⅳ	～923万円	4,777	5,047	4,816	5,012	4,473	4,959	6,526
Ⅴ	923万円～	9,693	8,530	9,403	9,472	8,710	9,455	11,414

※年収の境界値は2025年のもの　※青字は平均を上回った支出額

